

令和4年度英語ディベート学習「事前学習会」

目的

静岡県下の教員及び高校生を対象に、英語ディベートの理論と実践を学習する機会を提供することにより、英語ディベート指導の拡大を図り、英語コミュニケーション能力の一層の向上に資するとともに、新学習指導要領に基づいた授業改善の一助とする。

令和4年8月25日（木）静岡県総合教育センターにて、「英語ディベート学習「事前学習会」」が開かれました。高校生は10校から94人の参加がありました。また教員等も15人の方々が参加してくださいました。

【令和4年度の参加校】

- ・三島北、沼津東、吉原、清水東、浜松北、浜松西、浜松南、浜松湖南、不二聖心、静岡雙葉

タイムテーブル

		S1 (初級) 12名	T1 (教員初級) 8名	T2 (教員中級) 8名	S2 (中級) 51名	S3 (上級) 38名
	9:30~	受付				
	10:00~10:10	開会式（講堂）				
1	10:20~11:10	① 初任者レクチャー (研修室4)		② 矢野善郎教授（中央大学）による 論題研究（講堂）（映像配信）		
2	11:20~12:10	ミニ試合 準備	③ 指導者研修 (JTE, ALT)		ディベート 準備	④ 練習試合 1
	12:10~13:00	昼休み				
3	13:00~14:10	ミニ試合	ジャッジ実践		ディベート 実践	④ 練習試合 2
4	14:20~15:30	⑤ モデルディベート観戦（講堂） AFF 浜松北 対 NEG 清水東 ジャッジ：高山西 堀尾護先生				
	15:30~15:45	閉会式（講堂）				

（あらゆるレベルのチームが理論を学び、実践ができるようタイムテーブルが用意されております。）

- ①・・・オガタ先生が講師となり、参加者は英語で自己紹介し、その後「論理

的な理由」を言う練習を行いました。また、賛成側と反対側のどちらの理由が優れているのかを考える練習等を行いました。

- ② . . . 矢野教授からは、「DEBATE MAKES FRIENDS!」と題して、主に1なぜ英語でディベートを行うのか、2四人の役割、3具体的な立論の立て方、4今年度のテーマである「定年制の廃止」についてオンラインでの講義がありました。ディベートはClash（意見の衝突）の練習であり、そのClashの結果生産性が生まれるべきであり、そういうところでフレンドリーにClashするよう高校生に呼びかけました。また、エビデンスに基づいて客観的に具体的に効率よく行うこと、HEnDAは4人が自分の役割を理解しチームワークで戦うように設計されていること、三つの小論点による証明という思考法などを教えてくださいました。加えて、矢野教授はチーム4人の役割りについても1つ1つ丁寧に説明してくださりました。
- ③ . . . ディベートは初めてという先生方も一緒に指導者研修を行いました。フローシートを用いての記録の取り方（フローテイキング）等を練習しました。ALTも5名が参加し、ジャッジの研修等を行いました。
- ④ . . . 練習試合では、沼津東対清水東、浜松北対浜松西、浜松北対沼津東、浜松西対清水東を行い、見学していた方々が感想等を言い合いました。また、それぞれの両チームが学んだことを相互にフィードバックし、シェアしました。
- ⑤ . . . モデルディベートとして、講堂の舞台上でAFF 浜松北対NEG 清水東を行い、高山西高校の堀尾先生にオンラインでジャッジをしていただき、また講評もしていただきました。堀尾先生からは、ディベートのClash（意見などの衝突）のポイントをジャッジの視点で御教示いただくなどしました。また、他の多くの参加者は、フローシートを作成しながら観戦しました。

（モデルディベートを行った生徒からは、「もっと分かり易く伝えたらよかった」「エビデンスを調べていないこ事柄があった」「もっとリスニングを鍛えたい」「いい仲間に巡り会えた」などのコメントがありました。）